

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

B. 円滑な学位授与の促進

⑤ポートフォリオ等を活用した到達度の把握と研究指導の充実

《理工農系》

●広島大学生物圏科学研究科

「食料・環境系高度専門実践技術者養成」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

- ・eラーニングポートフォリオ (Web 教育記録システム) の開発に時間を要し、またこのシステムの教員・学生への浸透に苦勞した。

(苦勞したこと、困難であったことの詳細な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

- ・この Web 教育記録システムは、研究科独自のシステムであり、各コンテンツをより使いやすいものへと変更を重ね、最終的にはシステムの開発に 2 年間に要した。そのため実際には 22 年度からの運用となった。また、学生と教員への説明会 (FD) を通じてこのシステムの浸透を行ったが、全ての学生や教員への浸透に困難を要した。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

(結果が望ましい場合)

- ・開発したシステムに関するマニュアル冊子 (学生用および教員用) を作成し、説明会と FD を通じて何とか 22 年度より運用できるようになった。

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

E. 学習・研究環境の改善

⑤その他

《理工農系》

●広島大学生物圏科学研究科

「食料・環境系高度専門実践技術者養成」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

- ・Newton社のTLT training softを導入し、学生がWeb上で英語のトレーニングをできるようにした。基本的に、修士課程および博士課程1年生に6ヶ月間の自主学習を提供し、トレーニング前後にTOEIC試験受験を勧めた。英語の重要性を認識している学生にとっては、効果的であったが、英語力(特にコミュニケーション)向上に関心の低い学生は、ほとんどWebにアクセスせず、TOEICスコアの上昇に繋がらなかった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

- ・英語力の重要性の認識に関して、学生間で大きな差があり、全ての学生の英語力上達には、繋がらなかった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

(結果が望ましいものでは無かった場合)

- ・英語力の向上については、学生の自主学習に任せず、カリキュラム内である程度強制力を持たせないと意識の低い学生には効果が期待できない。修了要件にTOEICスコアを明記し、学生の意識を変えさせることも一改善策かもしれない。